



安全祈願式典の様子



白鷹山関による地固め。四股を踏むと町民の方からは「ヨイショ！」と声上がり、最後は大きな拍手が沸きました。



テープカットの様子

荒砥高校吹奏楽部が山形県民の歌「最上川」などを演奏。式典に花を添えました。



親子三代渡り初め参加のご家族



大木俊雄さんご家族



小関泰幸さんご家族



佐藤光雄さんご家族



式典の最後に行われた渡り初め。親子三代参加の方々を先頭に、かけつけてくれた町民の皆さんと一緒に渡りました。



大嶋吉幸さんご家族



佐藤仙一さんご家族



町民悲願の新橋誕生。『白鷹大橋』が開通

12月6日、白鷹大橋の開通式が行われ、式典には関係者および来賓、地域住民など約100名の方々が参加しました。

町民が長年待ち望んでいた「新・荒砥橋」の建設。平成16年に新荒砥橋建設促進期成同盟会が立ち上げられ、「新荒砥橋架ける力だみんなの熱意」を合言葉に、町を挙げて橋の架け替え運動に取り組んできました。その熱意が通じ、平成28年より建設工事が着工。4年もの歳月を経てようやく完成しました。橋名についても「荒砥橋」から「白鷹大橋」と変わり、この橋名には、これまで以上に本町が一体となって発展してほしいという願いが込められています。

町民の皆さんがこの橋に寄せる期待はとても大きく、開通式の様子を一目見ようと、大勢の町民の方々がかけつけました。また、渡り初めには足を運んでいただいた皆さんにも参加していただき、喜びを分かち合うことができました。

旧荒砥橋については、昭和32年の完成から今日まで、東西をつなぐ架け橋として町民の皆さんから長年にわたり愛されてきました。架橋当時、開通式にはこの日を待ち望んでいた町民であふれかえり、1万人余りの方々が訪れたという記録が残っています。あれから62年、その役目を終えることとなり、令和3年度からは撤去工事が始まります。これまで、町の産業や観光、地域の発展に大きく寄与してきました。白鷹大橋の開通を喜ぶとともに、旧荒砥橋には感謝の思いでいっぱいです。